

会員対象の「生活サポート総合補償制度(AIG普通傷害保険)」と「各種事業」で会員並びにご家族の生活を支援します

大阪生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

平素は、当大阪生活サポート協会の運営にご理解・ご支援を賜りましてありがとうございます。国内で「新型コロナウイルス」が確認されて8ヶ月余り、まさか世界中に蔓延し日々「コロナ」と共に歩む生活がやってくるとは思っていませんでした。

令和2年度事業は左記の方針に基づき計画しておりましたが、やむを得ず事業内容の変更あるいは中止することになります。そこでコロナ禍に対応して「応募作品発表」の内容変更(1)及び新たな事業(2)(3)を実施したいと考えています。

■会員の皆さま一人ひとりが自ら選んだ地域で、権利の主体者として安全・安心に、かつ安定した生活を送ることのできる、そんな環境づくりに努めます。

■また、会員の皆さまには、いろいろな経験を積んで「エンパワメント」していただける会員参加型事業の実施に努めます。

■会員のご家族には、ご家族対象の勉強会や研修会等の支援を考えます。

*会員「生活サポート総合補償制度」に加入する知的障がい児者・自閉症児者

(1)「作品写真集」の作成

「会員の皆さまからの応募作品」作品応募者全員にお集まりいただくことは「密」の状態になります。ご応募いただいたすべての作品を一冊の「作品写真集」にまとめて印刷し、ご披露することになります。応募者からの一言メッセージも掲載いたします。

(2)コロナ支部見舞金

感染リスクの中、会員の安全・安心な生活を守るため、日々奮闘されている支部(施設等)職員の皆さまに深く感謝します。支部において新型コロナウイルス感染症が発生した状況下で職員が会員(利用者)に対応した場合、支部見舞金を支給します。

(3)エンジョイ支部助成金

「自粛生活を楽しく、豊かに！」

会員の皆さまの生活は「外出できない」「行事が中止になった」など、我慢の「巣ごもり」状態にあると思われます。今の生活をちょっとだけ工夫して楽しくしてみませんか。

※右記(1)(2)(3)の3点についての詳細は大阪生活サポート協会事務局までお問い合わせください。

「特別措置」を設けています

～新型コロナウイルス感染症における「生活サポート総合補償制度」の対応～

■「特別措置」の内容

医療機関・医師の指示により、臨時施設(※)または自宅で入院と同等の療養をした場合は、入院したものと同様に、入院給付金をお支払いします。

※厚生労働省が2020年4月2日に、地方公共団体に対して、無症状・症状の軽い新型コロナウイルス感染者を「宿泊療養」、「在宅療養」とするための準備に関して通知しましたが、この「宿泊療養」のための宿泊施設を含みます。

■「特別措置」の保険金請求時に必要な書類

通常書類に加えて、次の①～③に関する医療機関・医師からの書面による証明が必要です。

- ①入院と同等の療養が必要と判断し、臨時施設または自宅での療養を指示したこと
- ②臨時施設の名称・住所
- ③臨時施設、自宅のそれぞれで療養した期間

詳細については、ジェイアイシーウエスト株式会社(0120-177-294)まで。



作品応募者のつどい参加者全員主人公！



令和元年12月5日（木）、大阪知的障害児者生活サポート協会主催「作品応募者のつどい」が「参加者全員が主人公」・「じぶんRASHI-KU」をコンセプトにホテルアウィーナ大阪にて開催されました。日ごろ頑張っている様子や作品のことについて、お互いに意見を交換しながら会が進められました。

当日は総勢107名の参加がありました。午前は応募作品の中から、大阪生活サポート協会賞・AIG賞・ジェイアイシーウエスト賞を各1点と、生き生きと輝いてその人らしさが感じられる入賞作品を13点の、計16作品の制作者に安本理事長から表彰状と副賞が授与されました。また、当日参加された制作者には、各制作者の作品の写真入りカレンダーとクッキーがお土産として用意され、午後の作品紹介時に制作者の方に渡されました。

午後の交流会では、参加者を代表して稲垣章子さんの開会宣言、その

後、アトラクションとして清光会和太鼓「韻（ひびき）」の和太鼓演奏がスタートするはずでしたが、参加していた一人の制作者の方（以下、「彼」）が準備中の舞台にあがってこられました。突然のハプニングでしたが、和太鼓「韻（ひびき）」の担当職員が「一緒にやりましょう」というスタンスで、突然入ってこられた彼と一緒に和太鼓の演奏がスタートしました。舞台に立たれた彼は、太鼓のリズムに合わせ手を差し出しリズムをとる場面もあり、全く違和感のない空間が出来上がっていました。演奏終了後、「韻」のメンバーが聞いて頂いた方々へのお礼を込めて「礼」との掛け声に、舞台に立たれていた彼も、「韻」のメンバーと同じく頭を垂れて「礼」をされていました。ハプニングでしたが、今回の会のコンセプトである「参加者全員が主人公」であり「じぶんRASHI-KU」自分を表現できることを表すかのような一場面を見ること

ができました。（「韻」のメンバーのご利用者の中には、自らの努力で一般の太鼓の技術認定4級を取得したメンバーがいます。これも太鼓という表現の中で「じぶんRASHI-KU」自分を表現したものだと思います）

この後、ホテルという普段とは違った雰囲気の中で、食事や歓談、制作した作品をスクリーンに投影し、参加者にご披露する場面がありました。楽しいひとときを過ごされていました。歓談の中で今回入賞できなかった制作者の方から、「次はもっと良いものを制作してきます。」という前向きな言葉も聞くことができました。一つの作品を制作し、そして、仲間と作品について意見を交換することを通じて、いつの間にか「じぶんRASHI-KU」作品を作りたいという気持ちが生まれてきたのかもしれません。

柴沼廣



令和2年（2020）年度 定時社員総会開催

令和2年6月23日に大阪府社会福祉会館内で開催されました。
すべての議案が承認されました。

令和2、3年度の役員は以下のとおり。

理事長	安本 伊佐子（社福）和泉つくし福祉会 理事長
副理事長	吉川 喜章（社福）障友会 理事長
理事	菱川 幹人（社福）武田塾 高井田苑 施設長
理事	榊 皇雄 ジェイアイシーウエスト株式会社 代表取締役
理事	川口 博之（社福）今川学園 ワークセンターいまがわ 施設長
理事	阪口 勉（社福）大阪府障害者福祉事業団 にじよう 施設長
監事	正田 健二（社福）和光福祉会 熊取療育園 前施設長

【令和元年度 事業報告】

6月 ソフトボール大会（大阪福祉協会と共催）
9月 機関紙創刊号「RA・SHI・KU（らしく）」発行
10月 「スポーツフェスタ2019大阪」参画・助成
11月 世話人研修会
12月 ホテルにて「作品応募者のつどい」
令和2年1月 研修会（大阪福祉協会と合同）

年間 支部活動等助成事業の実施
（応募支部（事業所等）数：53、助成支部数：29）

※令和2年2月開催予定の「集まれグループホーム」は、新型コロナウイルスの感染リスクを考え、やむなく中止とさせていただきます。

■令和2年度事業について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からスポーツ関係は中止となりました。

「集まれグループホーム」については、現在のご実施時期は未定です。「作品応募者のつどい」は「密」を避けるため中止とし、代わりに応募作品については「作品写真集」を発行し、ご応募いただいた皆さんにお配りしたいと思っています。



令和元年度 収支計算書

平成31年 4月 1日 から令和 2年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会費収入	23,427,900	24,076,050	△ 648,150
②補助金等収入	0	200,000	△ 200,000
③受取利息収入	3,000	4,225	△ 1,225
事業活動収入計	23,430,900	24,280,275	△ 849,375
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
支部活動助成金支出	4,800,000	3,076,142	1,723,858
スポーツフェスタ支出	200,000	300,440	△ 100,440
就労・生活支援事業支出	1,300,000	501,197	798,803
研修会支出	400,000	246,489	153,511
広報費支出	600,000	469,827	130,173
支部（事業所）の実態調査支出	0	707,850	△ 707,850
10周年記念事業支出	3,000,000	2,166,602	833,398
フレンドシップソフトボール大会支出	150,000	150,432	△ 432
なんでも相談支出	300,000	0	300,000
表現活動支援支出	600,000	813,044	△ 213,044
事業費支出計	11,350,000	8,432,023	2,917,977
②管理費支出			
役員報酬支出	1,000,000	717,300	282,700
給料手当支出	4,600,000	4,261,810	338,190
賞与支出	300,000	300,000	0
法定福利費支出	450,000	480,478	△ 30,478
福利厚生費支出	50,000	31,248	18,752
会議費支出	150,000	60,291	89,709
交際費支出	30,000	708	29,292
旅費交通費支出	370,000	2,000	368,000
通信運搬費支出	1,000,000	686,925	313,075
消耗什器備品費支出	200,000	0	200,000
消耗品費支出	150,000	46,880	103,120
印刷製本費支出	100,000	24,750	75,250
光熱水料費支出	0	105,632	△ 105,632
賃借料支出	1,000,000	781,866	218,134
租税公課支出	3,000	0	3,000
負担金支出	1,777,000	1,828,900	△ 51,900
会費・参加費支出	50,000	22,000	28,000
リース料支出	180,000	177,552	2,448
業務委託費支出	1,100,000	1,116,660	△ 16,660
顧問料支出	388,800	392,400	△ 3,600
会計巡回指導支出	400,000	359,700	40,300
研修研究費支出	50,000	22,068	27,932
雑支出	45,000	40,031	4,969
管理費支出計	13,393,800	11,459,199	1,934,601
③その他の支出			
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
事業活動収支差額	24,813,800	19,961,222	4,852,578
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
①10周年記念事業資金取崩支出	5,000,000	5,000,000	0
投資活動収入計	5,000,000	5,000,000	0
2. 投資活動支出			
①什器備品購入支出	0	163,020	△ 163,020
②運営資金積立預金取得支出	0	10,000,000	△ 10,000,000
投資活動支出計	0	10,163,020	△ 10,163,020
投資活動収支差額	5,000,000	△ 5,163,020	10,163,020
III 予備費支出			
当期収支差額	3,617,100	—	3,617,100
前期繰越収支差額	0	△ 843,967	843,967
前期繰越収支差額	0	24,909,575	△ 24,909,575
次期繰越収支差額	0	24,065,608	△ 24,065,608
保険料の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
預かり保険料	151,769,700	155,851,440	△ 4,081,740

令和2年度 収支予算書

令和 2年 4月 1日 から令和 3年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会費収入	23,083,300	23,427,900	△ 344,600
②受取利息収入	3,000	3,000	0
事業活動収入計	23,086,300	23,430,900	△ 344,600
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
通信運搬費支出	1,100,000	0	1,100,000
支部活動助成金支出	4,300,000	4,800,000	△ 500,000
スポーツフェスタ支出	0	200,000	△ 200,000
就労・生活支援事業支出	1,700,000	1,300,000	400,000
研修会支出	500,000	400,000	100,000
広報費支出	700,000	600,000	100,000
10周年記念事業支出	0	3,000,000	△ 3,000,000
フレンドシップソフトボール大会支出	0	150,000	△ 150,000
なんでも相談支出	200,000	300,000	△ 100,000
表現活動支援支出	1,000,000	600,000	400,000
事業費支出計	9,500,000	11,350,000	△ 1,850,000
②管理費支出			
役員報酬支出	1,000,000	1,000,000	0
給料手当支出	4,600,000	4,600,000	0
賞与支出	375,000	300,000	75,000
法定福利費支出	470,000	450,000	20,000
福利厚生費支出	50,000	50,000	0
会議費支出	70,000	150,000	△ 80,000
交際費支出	30,000	30,000	0
旅費交通費支出	300,000	370,000	△ 70,000
通信運搬費支出	700,000	1,000,000	△ 300,000
消耗什器備品費支出	100,000	200,000	△ 100,000
消耗品費支出	150,000	150,000	0
印刷製本費支出	100,000	100,000	0
賃借料支出	850,000	1,000,000	△ 150,000
租税公課支出	0	3,000	△ 3,000
負担金支出	1,844,000	1,777,000	67,000
会費・参加費支出	50,000	50,000	0
リース料支出	180,000	180,000	0
業務委託費支出	1,200,000	1,100,000	100,000
顧問料支出	396,000	388,800	7,200
会計巡回指導支出	400,000	400,000	0
研修研究費支出	50,000	50,000	0
雑支出	120,000	45,000	75,000
管理費支出計	13,143,000	13,393,800	△ 250,800
③その他の支出			
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
事業活動収支差額	22,713,300	24,813,800	△ 2,100,500
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
①10周年記念事業資金取崩支出	0	5,000,000	△ 5,000,000
投資活動収入計	0	5,000,000	△ 5,000,000
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	5,000,000	△ 5,000,000
III 予備費支出			
当期収支差額	373,300	3,617,100	△ 3,243,800
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0
保険料の部			
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
預かり保険料	180,348,820	151,769,700	28,579,120

この子の生きた証を！ ～親の切なる願い～

大阪生活サポート協会
副理事長 吉川 喜章

平成30年度、当協会では会員（親族）及び各支部の「実情」を把握すべくアンケート調査を実施いたしました。いろいろなことがわかりました。特に会員（親族）の「困りごと」に関する回答（自由記述）には、支援者側が襟を正すべき事項も多数見受けられました。

親御さまの「親亡きあと」への思いの深さには改めて感じ入ったところです。親の、子に寄せる思いをもっと深く知りたいと考え、ひとりのお母さまへのインタビューを試みました。

このたび、お母さまのおゆるしを得、趣意を損なわないようにしてその一端をご紹介させていただくことになりました。

親子ともにお世話になっております。作業所づくり運動にかかわって44年になります。

作業所が法人認可施設になってからもすでに30数年。私（母）も息子もずいぶん年齢を重ねました。おかげ様で息子は法人のグループホームに入れていただき、とりえず安心しています。当然、私の方が先に逝きます。本当は息子を見送って、その翌日に私が逝くというのが理想的。でもそんなにうまくはいきません。

私の死後のことを考えると心が落ち着きません。せんのないことです。どうなるかわからないことを心配しても仕方のないことなのですにね。

私の本当の願いは「息子の死後のこと」です。亡くなった息子のことを誰が思い出して節目毎に弔ってくれるのか。私のことは子供たちが放っておかないと思います。そう信じています。でも、息子についてはどうでしょう。

配偶者も子もなく、つまりはひとりぼっちの身。子供達に託すしかありませんが、どこまで期待できるのか。共に暮らした時間も少なく、すぐに忘れられてしまうのではないか。子供達には家庭があり家族がいます。もちろんいつまでも、という訳にはいきません。

できる限りでよいのですが。こんな埒もないことで胸がざわつくことがあるのです。死後、誰からも顧みられず忘れ去られてしまう、そんな息子が一層不憫です。

息子は作業所が本当に好きでした。グループホームでの暮らしもそれなりに満足しているようです。人生の大半を作業所ですごしています。作業所は息子の生きがい。人生そのものだと思います。

法人にお願いです。将来、私の死後、息子に不幸があれば、法人の歴史の上のどこかに息子が「存在していた証」を刻んでいただけないでしょうか。そして時には思い出してあげていただけたら幸いです。

法人（作業所）と共に生きた息子。法人の、「人の歴史」のほんの一部としてでも思い出おこし、のちの時代まで語りつないでいていただけたら。母としてこれ以上の安心と喜びはありません。わがままなことをお願いしています。

新たに3人の編集委員
が加わりました

今回、大阪知的障害児者生活サポート協会機関紙の編集に初めて携わることができ、本当にいい経験になりました。

編集者一同が力を合わせて作成した機関紙なので、是非皆さんに見ていただきたいです。

社会福祉法人障友会 堺みなみ
横谷 茜

今回から参加させて頂きました。このような機会を頂けたことに大変感謝しております。

まだまだ未熟な私ですが、よろしく願います。

特定非営利活動法人だんぞらいおん
山下 逸

2016年入社のまだまだフレッシュマンです。宜しく願い致します。

まだまだ至らない点が多く、皆さまに支えていただくとおは思います。私らしく「明るく、元気にがんばります」。

ジェイアイシーウエスト株式会社
竹本 幸司

RA-SHI-KU（らしく） 第2号 令和2（2020）年9月

発行人 安本 伊佐子
発行所 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6764-6889 FAX 06-6770-5988
E-mail kyokai@osakasupport.or.jp www.osakasupport.or.jp
編集 安本 伊佐子 吉川 喜章 柴沼 廣 松山 茂美 横谷 茜 山下 逸 竹本 幸司
制作 ハンドレッドラボ

●編集後記● 本号より新しい試みとして会員向け機関紙（らしく）を従来の機関紙に加え、発行することになりました。会員の皆さんのお手元に届き、皆さんからいろいろなご意見・ご感想をいただければとてもうれしいです。コロナウイルスが終息し、この機関紙をご覧の皆さんが元の「わたし RA-SHI-KU」生活できることを願っています。